

平成29年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第3回第一分科会
開催日時	平成29年7月11日(火) 午後2時から4時まで
開催場所	葛飾区役所新館5階 庁議室
出席者	【委員7人】 大石会長、安藤委員、大山委員、河角委員、千田委員、堀切委員、望月委員 【区側5人】 事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員2人) 地域教育課(地域教育課長)

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認)

2 事務事業の概要説明及びヒアリング

(地域教育課より「かつしか少年キャンプ」の概要について説明した後、質疑応答、議論)

＜基本情報＞

大石会長 : 区内の子ども会に参加を呼び掛けているのか。

地域教育課 : 子ども会に所属している小学校4年生から6年生を対象として、区内全体の単位子ども会にチラシを配付し、参加者を募集している。

大石会長 : 参加者に偏りはあるのか。

地域教育課 : 子ども会育成会連合会に加入している単位子ども会の数は、15ブロック、76団体にまで減っている。ブロックによっては、子ども会育成会連合会に加入していないエリアもあるため、全ての小学校に参加を呼びかけられていない状況にある。なお、28年度の参加者の在籍小学校は14校に留まっている。

A委員 : 子ども会育成会連合会に加入している単位子ども会は、以前はもう少し多かったように思う。

地域教育課：昭和 59 年ごろには、180 を超える単位子ども会が子ども会育成会連合会に加入していたが、現在は半分以下に減っている。また、子ども会員数も、昭和 52 年ごろには最大で約 29,000 人であったが、現在は 5,600 人程度に減少している。

B 委員：子どもの数自体が減少しているということか。

地域教育課：少子化の進行もあるが、近年ではマンション単位で子ども会を作り、独自に活動を行っていたりと、子ども会育成会連合会へ加入していない単位子ども会もある。

B 委員：子ども会員数は、区内の小学生の数と一致するのか。

地域教育課：区立小学校に通っている小学生は約 2 万人、そのうち小学校 4 年生から 6 年生は 1 万人程である。お示ししている子ども会員数は、子ども会育成会連合会に加入している子ども会に所属している子どもの数である。区内で活動している単位子ども会が、子ども会育成会連合会に加入をすると、傷害保険の適用を受けられるようになる一方、保護者にとっては役員や担当等の役割が生じるため、それを煩わしく感じる場合もあるのであろう。

C 委員：キャンプで自主的に考え行動することは、子どもたちにとって良い経験になると思う。キャンプには、指導員のジュニアリーダーが 30 名程参加しているとのことだが、どのような年齢層なのか。

地域教育課：高校生が中心である。ジュニアリーダー講習会を修了した高校 1 年生から 22 歳までの方がジュニアリーダーとして参加している。その他、青年リーダーや区職員も参加しているため、参加者の安全確保には万全を期している。

D 委員：キャンプの実施時期は、宿泊施設が確保できた日程によって変動するのか。

地域教育課：その通りである。

<実績情報>

B 委員：29 年度は、定員 90 名に対して 97 名の申込みがあったとのことだが、7 名は参加できないということか。

地域教育課：本来、定員を超えた場合は抽選となるが、今年度はバスの補助席を利用して全員が参加できるようにした。

大石会長：毎年参加する子どもも多いのか。

地域教育課：小学校 4 年生で参加すると、5 年生でも参加することが多い。しかし、6 年生になると参加者数は少なくなる傾向にある。

大石会長：申込数自体は年々減少しているのか。

- 地域教育課：申込状況に特段の変わりはない。
- D委員：実施時期が変動することにより、申込状況にも変動が出てくるのか。
- 地域教育課：お盆を除いた8月初旬又は下旬にキャンプを実施するようにしているが、家庭での夏休みの予定と重なり、キャンプに参加できないこともあるであろう。
- A委員：指導者の参加人数は確保できているのか。
- 地域教育課：キャンプの実施にあたっては、参加者を10班に分け、1班あたり1名のジュニアリーダーを充てるため、最低30人の指導者の参加が必要であるが、28年度は23名の参加しかなかった。
- E委員：保護者が子ども会の手伝いをできなくなるとやめてしまうため、子ども会自体の活動が立ち行かなくなってしまう。どのようにして、子ども会の数を増やしていくのかが今後の課題と考えている。
- A委員：学校選択制になったことで、町会にも子ども会にも入らない人が増えているのではないか。
- 地域教育課：子ども会の活動は、戦後、地縁により活発化したものであるが、現在の地域でのつながりの稀薄化が、子ども会への加入に影響を及ぼしているのかもしれない。
- D委員：キャンプ参加者のアンケートでは、「とても楽しかった」、「来年も参加したい」と回答している子どもが多い一方、ジュニアリーダーには「なりたくない」、「わからない」と回答している子どもも多い。楽しかったと回答した子どもが、キャンプを通してジュニアリーダーになりたいと思うようになれば、将来的な指導者の数も維持できるのではないか。そのためには、キャンプを通して、ジュニアリーダーの魅力を伝えていく必要があるのではないか。
- 地域教育課：キャンプでの体験を通してジュニアリーダーを志してもらうためには、ジュニアリーダーの魅力をいかに伝え、ジュニアリーダーとなった後の活躍の場も確保していかなければならないと考えている。
- A委員：子どもがジュニアリーダーを志しても、親が勉学を優先させてしまうことも多いのではないか。親の理解と協力を得るためには、ジュニアリーダーになり自主的に考え活動する大切さを、子どものみならず親へも啓発する必要があるのではないか。
- B委員：アンケートでは、4人に1人がジュニアリーダーに「なりたくない」と回答しているが、なりたくない理由を尋ねる設問を加えることで、なぜなりたくないと思っているのかが分かるのではない

か。

地域教育課：今年度のアンケートから設問に加えたい。

<コスト内訳>

大石会長：参加者が負担する5,000円は、区の収入となるのか。

地域教育課：5,000円は子ども会育成会連合会が集金し、宿泊代や食事代、保険料として子ども会育成会連合会が支出するため、区の収入にはならない。本事業は、子ども会育成会連合会との共催事業のため、費用についても、区が負担する費用と子ども会育成会連合会が負担する費用に分かれている。

大石会長：子ども会によって、予算規模は違うのではないか。

地域教育課：本事業に係る経費は子ども会育成会連合会が支出している。単位子ども会は子ども会育成会連合会に加入すると、子ども会員一人あたり50円を会費として子ども会育成会連合会に支出している。こうした収入を財源として、子ども会育成会連合会は様々な事業や団体運営を行っているが、その中で本事業の参加費用6,000円の一部1,000円を支出している。

F委員：昭和37年度から平成7年度まで、水元公園キャンプ場を利用して実施しているが、現在は利用できないのか。

地域教育課：当時は、水元公園キャンプ場に青年の家があり、テントを張ってキャンプを実施していたようである。平成20年度前後からは、キャンプ場ではなく施設を利用している。

大石会長：宿泊場所によって、参加者が負担する費用に変わりはないのか。

地域教育課：参加者が負担する費用は、宿泊代や食事代、保険料に充てられるため、毎年6,000円で変わりはない。バスの借上げ料は、宿泊場所や実施時期により変動があるが、区が支出しているため、参加者の負担額に影響はない。

D委員：高速道路料金として計上しているものはどのようなものか。

地域教育課：区職員は庁用車で随行しているため、その分の高速道路料金である。参加者が利用するバスの高速道路料金はバスの借上げ料に含まれている。

D委員：宿泊する施設によって、宿泊代は変わるのか。

地域教育課：28年度は、子どもは1泊190円、大学生は1泊360円、大人は1泊910円であった。どの施設においても、概ね子どもは1泊500円以内である。

大石会長：指導員や看護師は無料で参加しているのか。

地域教育課：食費等の実費を負担して参加している。区職員についても、実費相当額として6,000円を負担して参加している。

大石会長：指導者等の参加費を安くすることで、指導者数を確保できるのではないかと。また、子ども会育成会連合会の収支状況はどのようなものか。もう少し、区が費用負担をしても良いのではないかと。

地域教育課：子ども会育成会連合会は、28年度の収支として、指導員及び区職員を含めた約110名の参加で約70万円を計上している。詳細は次回お示ししたい。

D委員：ジュニアリーダーや区職員が負担している参加費は、子ども会育成会連合会の収入になり、別途指導員等へは報償費として区が支出をしているということか。

地域教育課：その通りである。

＜今後の方向性＞

C委員：日光林間学園も夏休み中は空いているのではないかと。宿泊施設の候補として検討してはどうか。

地域教育課：宿泊施設の候補の1つではあるが、現在は指定管理者制度により民間事業者へ運営を委託している施設であるため、区の利用であっても確保が難しい場合もある。

F委員：親としても、綺麗な施設の方が参加させやすいという面もあるのか。

地域教育課：施設内に風呂やトイレがあり、食事も給食として提供される施設での宿泊というのは、親としては安心感があるのかもしれない。

F委員：利用できる宿泊施設が限定されてしまっているとのことだが、静岡県での実施も可能なのか。

地域教育課：移動時間も考慮する必要がある。かつては群馬県で実施したことがあるが、片道3～4時間かかると現地での活動時間が短くなってしまう。

F委員：キャンプ終了後に反省会等は実施しているのか。

地域教育課：9月ごろに、ジュニアリーダーの代表を交え、実行委員会で反省会を実施している。

F委員：ジュニアリーダーに「なりたい」とアンケートで回答している子どももいる。なりたい理由を検証する必要があると思うがどうか。

地域教育課：現在はなりたい理由を問う設問自体がないため、検証はできていない。先程のご指摘とともに、今年度のアンケートから改善していきたい。

- 大石会長 : キャンプのあり方について、子ども会と意見交換等を行っているのか。
- 地域教育課 : 毎年5月には子ども会育成会連合会の総会を、6月には各単位子ども会の代表者が集まる代表者会を実施している。その際には、チラシの配付や申し込み状況等の報告を行っているが、キャンプのあり方について意見交換は行っていない。
- E委員 : 18年度に、子ども会育成会連合会未加入の子ども募集を行っているが、どのような理由か。
- 地域教育課 : 前年度、前々年度の参加者数が50名、51名と極めて少なかったため、18、19年度のみ子ども会育成会連合会に未加入の子ども募集を行った。以降は、一般募集は行わず、子ども会育成会連合会経由で子ども会員を対象として募集を行っている。
- C委員 : キャンプ以外に、ジュニアリーダーの活動の場はあるのか。
- 地域教育課 : はたちのつどいや亀参まつり、わんぱく相撲、子どもまつり等に参加している。その他、地域のイベントでも声が掛かると参加している。
- D委員 : 今後の方向性として、再構築も含めた事業のあり方について検討していきたいとのことだが、区としては、どの程度までの再構築を想定しているのか。
- 地域教育課 : キャンプを待ちわびて参加している子どももいるが、年々キャンプ自体の目新しさもなくなっているのかもしれない。また、保護者が子どもに体験させたいと考えている内容に合致していないのかもしれないが、可能であれば、ジュニアリーダーの活躍の場としてキャンプを実施していきたいと考えている。
- D委員 : キャンプの実施を継続するとなると、ジュニアリーダーによる指導に拘らず大学生等に関わってもらいながら実施していくのか、ジュニアリーダーの活躍の場としてジュニアリーダーの参加人数に応じて参加定員を減らして実施していくのかによっても、今後の事業の方向性が変わってくるのではないか。
- F委員 : ジュニアリーダーは、キャンプの企画に参加しているのか。
- 地域教育課 : ジュニアリーダーが主体的にプログラムを考えている。
- F委員 : ジュニアリーダーは本区独自の制度か。
- 地域教育課 : 他区にも同様の制度はある。ジュニアリーダーになるには、概ね月1回の講習会を受講し、安全確保や野営等の専門知識を習得する必要がある。講習会修了者には修了証を手渡し、単位が不足する場合は留年制度もある。

- B委員 : 講習会の講師は誰が担うのか。
- 地域教育課 : 子ども会に所属している 30、40 代の青年リーダーやジュニアリーダー会の若いリーダーもいる。
- F委員 : ジュニアリーダーになることに何かしらの魅力を感じないと、なりたいとは思わないのではないか。
- C委員 : 中学校 1 年生からジュニアリーダーの応募が可能であるが、中学校でジュニアリーダーの案内チラシを手にしても、積極的になろうとは思えないのではないか。小学校時代にジュニアリーダーと関わりを持ち、憧れを抱く機会としては、キャンプを実施する意義は多いにあると思う。
- F委員 : ジュニアリーダーが活動する中で、勧誘等に行っていないのか。
- 地域教育課 : 勧誘は行っていない。

3 その他

(事務局より事務連絡)

4 閉会